

いちだい地域共創プロジェクト



いちだい地域共創プロジェクトは、本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏およびその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的として、2022年度から始めた事業です。



▶2023年度採択事業

01 カープミュージアム設立プロジェクト

課題提案地域団体：カープミュージアム設立プロジェクト
代表教員：国際学部 教授 吉田 晴彦



【活動の目的】

原爆からの復興の象徴となった広島東洋カープ草創期の歴史を後世に語り継ぐことのできる本学学生を、カープかたりべの会と協力しながらの育成。活動を通じ、広島のもう一つの平和のシンボル・カープにまつわる歴史を学びながら、既に広島市が所有する球団草創期の貴重な資料を活用し、さらには地域の更なる活性化につながるミュージアム建設を中期的な目標とする。市民の機運を盛り上げるための企画を運営・実施しながら、ミュージアム建設の可能性を検討していく。そのために、各学部生の強みを生かした創意工夫、グループ内・グループ外のコミュニケーション能力の向上、企画立案能力の育成を目指す。

02 広島湾岸トレイル構想事業 山歩きの魅力と効能の考察とPRツールの制作

課題提案地域団体：広島湾岸トレイル協議会
代表教員：芸術学部 准教授 藤江 竜太郎



【活動の目的】

広島湾岸の山・川・街・海・島を越えて、瀬戸内の絶景を友に歩く山旅！世界でも類を見ない都市隣接周回型の広島湾岸トレイルは、4市5町にまたがる陸路291.9km！市民が立ち上げ開発し、市民が維持管理・運営を行っているが、広島湾岸トレイル協議会の所属団体の多くは、比較的高齢の方が担っており、整備や運営の継続性が懸念されています。本学学生が広島湾岸トレイルを体験し、若者目線で発見した魅力をPRツールで表現することにより、若者やファミリー層に活用され、ひいては山道の整備やイベントの運営等にも興味を持ってくれる人が増加することを目指す。

○2023-2024年度採択事業

03 熊野町つなぐプロジェクト

課題提案地域団体：熊野町つなぐプロジェクト
代表教員：教育基盤センター 特任講師 三上 賢治



【活動の目的】

広島県安芸郡熊野町には豊かな自然環境やアウトドアなどの多目的施設が豊富にあるが、町民の認知度が低く、利用もほとんどない。また、熊野町へ移住した住民の多くが、熊野の自然環境を気に入り移住を決めた重要な要素の1つに上げており、地域住民からも、アウトドア用品を揃える負担や準備などやり方がわからないものの「やってみたい」という意見が多くある。熊野町の自然環境・アクティビティ施設を、さらに多くの人に楽しんでもらい、地域の「人と人」や「人と場」がつながる環境づくりを行う上で、まずは熊野町に点在する自然やアクティビティ資源の見える化・発信を今年度の目的とする。

○2023-2024年度採択事業

04 竹原市の観光資源である「大久野島」の地域連携活性化事業

課題提案地域団体：TAKEHARAフロティアプロジェクトチーム
代表教員：情報科学研究科 准教授 島 和之



【活動の目的】

竹原市の「大久野島」では、コロナ禍前には多くの観光客が訪れ、うさぎをはじめとした「大久野島」の環境を楽しみながら、有意義な時間を過ごされてきた。しかし、コロナ禍により観光客が減少し、市としても大きなダメージを受けてきた。その反面、人の往来が少なくなり、島の環境が改善した。また、うさぎの健康状態が改善したという、良い面もみられてきた。
そこで、大久野島のうさぎや海ほたるなどの自然環境や毒ガス工場の歴史を伝える映像を作成し、環境保護や平和について考える。

05 だんばらのえんこうさん

課題提案地域団体：段原おやじの会
代表教員：芸術学部 講師 城井 文



【活動の目的】

段原地域は再開発が落ち着いてから数十年が経過し、過去の状況を知らない住民が増えているため、住民が楽しく暮らし、移り住む人とも交流できるようにするには、自分の町に愛着が必要だと考える。
地域への愛着を醸成するための手段として、段原本を制作したが、第二弾は絵本にし、猿猴川の河童をモチーフにしたあらすじがあるので、それを題材として絵を描き、過去の写真や解説を挿入するなどを構想している。
地域住民と若い学生が、まちづくりと本づくりを考える中で交流し、お互いの知識やアイデア交換を目的とする。

○2023-2024年度採択事業

06 コロナ禍でも健康体操で交流したい。もっと。

課題提案地域団体：比治山学区社会福祉協議会
代表教員：情報科学研究科 准教授 岩根 典之



【活動の目的】

コロナ禍など、対面活動が制限される事態になったとしても、健康維持のための活動（百歳体操、交流など）を止めることなく持続できる環境の在り方を模索する。そして試行錯誤しながら、心理面と身体面から健康の維持促進を可能にするよう対面からオンラインまでカバーする楽しいハイブリッド環境の展開普及を目指す。また、見守りなどのため、このプロジェクトをきっかけとしてスマートフォンを活用できる高齢者を増やす。

○2022-2024年度採択事業

07 アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与

課題提案地域団体：横川エリアマネジメント連絡協議会
代表教員：芸術学部 准教授 石谷 治寛



【活動の目的】

横川エリアマネジメント連絡協議会は2020年に4つの市営店舗を借り受け、そのうち2つの場所を改装し、「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の2つの空間を整備した。
スペースの積極的活用を目指し、地域で活動する創作者や市民から指導を受けながら、文化・芸術の振興が可能な場所として国際的に周知していくことを目指す。

○2022-2024年度採択事業